

畑に生きているのは木や草だけではありません。
動物たちも、お互い命がけで共存しています。



「モズのはやにえ」(バツヤやカマキリを串刺しに)



鹿の糞(侵入の経路や通り道を推測)



カマキリの卵(ここから百匹くらい幼虫が出できます)



たくさんのアブラムシを食べてんとう虫

果物の畑だまの
カノハタ通信

2019年夏 第5号
発行：カノハタ
山梨市市川1903
TEL：0553-23-1772

ケーキ屋さんにブドウ棚!!

いつもカノハタの果物を、とびきりのスイーツに変身させてくださる、東京のラトリエ・ドゥ・シユクルさん。お店にブドウ棚を作りたいとの相談を受け、比較的病害虫に強く、管理しやすいマスカット・ベリーAを選定しました。日本の品種で、香り高く、生食にも醸造用にも使われる品種です。鉢植えにしてお届けしてまいりました！
数年後には、入口が芳醇な香を放つブドウで覆われることを想像して・・・



L'ATELIER DU SUCRE
@latelierdusucre
TEL 03-6458-9205
月・火曜定休11~19時
江戸川区北小岩6-5-5



春の遠足

東京の下町・錦糸町にある子育てカフェ「ごろねのくに」からスタッフと常連さん御一行が訪れてくれました。ソメイヨシノがより一歩遅れで咲く桃の花は、この季節、甲府盆地を一面ピンク色にします。桃の木だけでなく桃の花を見るのが初めての方も多くなれば、この花全部が桃になる聞き驚いていました。一方小さな子どもたちといえは足元のとんと虫が気になる様子。いろいろなお虫を発見するため下ばかり見ていました。



子育てカフェ

「ごろねのくに」は、楽しそうにしている子どもたちを見守ることが何よりも大好きな人が集まる国。「ごろねのくに」があるの。この国では、子どもが泣いても騒いでも、子どもが泣いても騒いでも、あわててだっこして外に出たりする必要はありません。そっちゃんやダメ！それやっちゃダメ！も言わなくていいんです。子どもにご注意するのは、ごろねのくにを治めている王様とスタッフさんのお仕事です。(ごろねのくにHPより)



ごろねのくに
TEL 03-6876-7146
祝・水曜定休10~16時
(休みはご確認下さい)
墨田区太平3-7-3
メゾン向後101

あまりに素敵なお仕事なので、長引用になってしまいました。忙しいママやパパが「子どもたちに手軽に与えられることができる果物」ということでカノハタのモモとブドウのジュースをカフェで提供していただいています。子育て中のみなさん、行ってみたくありませんか!!



二月に脚立から落下し、まさかの手首骨折+手術をした園主。だいぶよくなりましたがリハビリ中。



「ゆるキャン」(山梨県を舞台にしたアニメ)ならぬ「畑キャン！」

今年も果物の季節がやってきます！毎年のように異常気象と数々の気象状況。5月霜が降り、ひょうが降る。雨が少なく、苗木が枯れるなど。自然を相手に安定的に作物を採るために、私達は常に観察、そして知恵と工夫と勉強の日々です。畑には、よく見ると様々な臭いが見えます。まず鹿の糞。大事な苗木の芽ばかりをかじる鹿は、一歩でも畑に入れば農家の敵です。侵入口に柵をしたり、苗木の周りを困ったり。農作業4年目の園主ですが、今までで驚いたことの一つは「モズのはやにえ」。ブドウの剪定中にふいにいくわすと思わず一歩ひきます。こんな恐ろしいことをするのはどんな鳥かと思いつつこの春初めて出会ったモズは、可愛いカラシ色の鳥でした。そして桃の枝にはカマキリの卵。寒空の下越冬するため、硬い卵のうに包まれています。そして下を見るとんとう虫。今年はおよそ百匹も見られました。なんと一日にアブラムシをとおよそ百匹も食べます。これら肉食の昆虫たちは、植物の汁で生きる虫たちを捕食してくれるので、農家にとっては大切な益虫です。



園主カズ。「おいしい果物つくります！」



母と1月に喜寿を迎えた父



忍者ごっこをする兄弟

小学生の校外学習

地域の産業を学ぶ社会科の授業で、ブドウ畑の見学がありました。地域産業とはいえ高齢化の農業界では、親が農家という児童はほとんどいないのが現状です。通学路はブドウ畑だらけでも、食べる機会しかない子どもたち。見学は生育期間中の作業中と収穫前の二回。一房の粒数を三五粒にする摘粒(てきりゆう)という作業中、八センチで落とすブドウの粒を地面に落ちる前にキャッチして試食する子ども。まだ固くて、粒も小さくて、とてつもなく酸っぱいブドウを感じてもらえたかな？



この中の一人でも、農業をやってみたいと思う子がいたらよいなあと思う園主なのでした。